

# スポーツバック

## 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。お使いになる前に、この取扱説明書をお読みください。お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、必ず保管してください。

必ずお読みください。 <ul style="list-style-type: none"><li>必ず事前に、正常に動作するか、水漏れはないかを確認してください。</li> <li>万一、スポーツバックの不具合により水漏れ事故を起こした場合、内部機材（ビデオカメラレコーダー、バッテリーなど）の損傷、および記録内容や撮影に要した諸費用などの補償は、ご容赦ください。</li> <li>スポーツバックおよび内部機材に対するソニー水中機材損害保険を用意しております。案内書をお読みのうえ、加入されることをおすすめします。</li></ul>
--

<div><span><span><span></span></span></span></div> <div>純正マーク</div>	この純正マークは、ソニー（株）のビデオ機器関連商品が純正製品であることを表すマークです。ソニー（株）のビデオ機器をお求めの際は、純正マークもしくはソニーロゴタイプが表示されているビデオ機器関連商品をご購入されることをおすすめします。
---	--

## SPK-DVF3

Sony Corporation © 2001 Printed in Japan

# 主な特長

お手持ちのデジタルビデオカメラレコーダーに本機を取りつけると、雨天時や海辺（水中では水深2m以内）での撮影ができます。ただし、波が高い場所でのご使用はお避けください。長時間の水中撮影をする場合は、別売りのマリンバックをご使用ください。

使用可能機種：DCR-TRV5、DCR-TRV9、DCR-TRV10、DCR-TRV17、DCR-TRV20、DCR-TRV30、DCR-TRV900

## 保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受けとりください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間で す。

#### アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証書は国内に限られています付属している保証書は、国内仕様です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証期間経過後の修理は修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。当社ではスポーツバックの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
型名：SPK-DVF3
故障の状態：できるだけ詳しく
お買い上げ日

## 主な仕様

材質
プラスチック（PC、ABS）、ガラス

防水構造
防水バックン、バックル

耐圧
水深2mまで

外部より操作可能な動作
撮影・再生時の電源入/切、録画開始/停止、フォト操作、ズーム操作

最大外形寸法

169×174×261 mm
（幅/高さ/奥行き）

質量

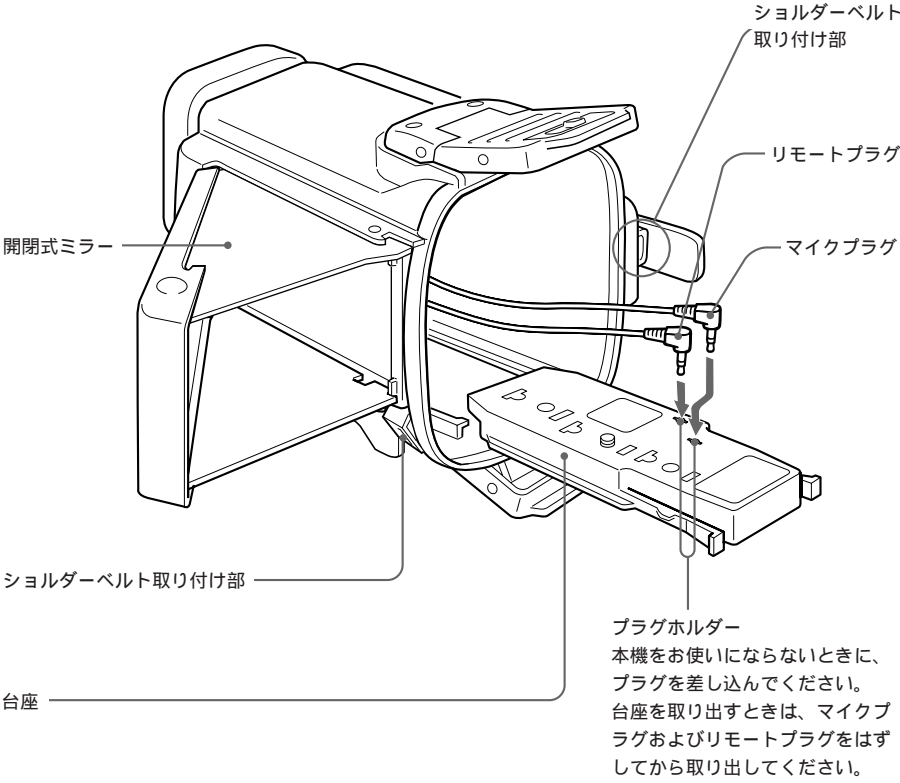
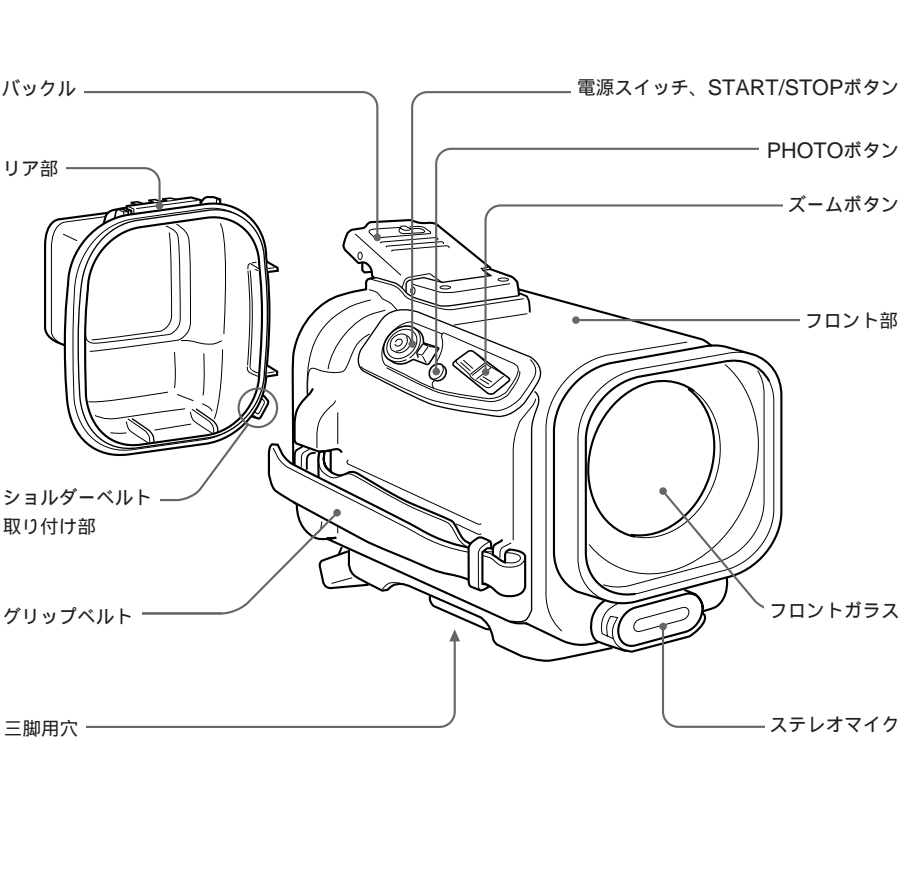
約990 g（本体のみ）

付属品

ショルダーベルト（1）
台座（1）
三脚ネジプレート（1）（台座に取り付け済み）
反射防止リング（大,小各1個）
シリコングリス（1）
くもり止めキット（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
水中機材用損害保険のご案内（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

### 各部のなまえ



プラグホルダー
 本機をお使いにならないときに、プラグを差し込んでください。台座を取り出すときは、マイクプラグおよびリモートプラグをはずしてから取り出してください。

### お手入れのしかた

海でのご使用後は、必ず、バックルをはずす前に真水（水道水など）で洗い、塩分をおとしてから、乾いた柔らかい布で水分をふき取ってください。30分程度、真水に浸しておくことをおすすめします。塩分がついたままにしておくと、金属部分が傷ついたり、さびたりして、水漏れの原因になることがあります。サンオイルなどが付着したときは、ぬるま湯でよく洗い流してください。

スポーツバック内部は、乾いた柔らかい布でふき、水洗いはしないでください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためますので、使わないでください。

くもり止めキットについて
スポーツバック前部のガラス面に付属のくもり止めキットを塗布すると、くもり防止に効果があります。

- くもり止めキットの使用方法
フロントガラス、アイカップのガラス面の内側に1～2滴たらして、コットン、柔らかい布、ティッシュペーパー等でクリーナー液が均等に広がるように拭いてください。

保管するときは

- 防水バックンの劣化を防ぐため、ボディを閉じたあとバックルは締めないでください。
- 防水バックンにホコリがつかないようにしてください。
- 高温、寒冷、多湿な場所や、ナフタリン、樟脳などを入れている場所での保管は、機材をいためますので避けてください。

### 故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に作動しないときは、お買い上げ店、ソニーサービス窓口、またはお客様ご相談センターにお問い合わせください。

音声が記録されていない
→ビデオカメラレコーダーのマイク（プラグインパワー）端子にマイクプラグをしっかりと差し込む。
スポーツバック内部に水滴がつく
→バックルをカチッとロックされるまで締める。
→防水バックンを正しく装着する。
→防水バックンに傷、ヒビ割れが入っている場合、新しいものと交換する。
撮影ができない
→バッテリーパックを十分に充電する。
→ビデオカメラレコーダーのLANC（リモート）端子にリモートプラグをしっかりと差し込む。
→テープが終わりになっている場合、別のカセットを入れる。またはテープを巻き戻す。
→カセットの誤消去防止つまみを戻す。または別のカセットを入れる。

### 取り扱い上の注意

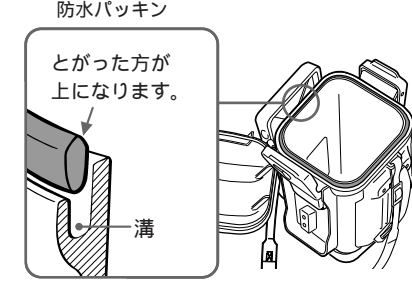
- 本体の前にあるガラス面に強い衝撃を与えないでください。割れることがあります。
- 海辺や海上でのスポーツバックの開閉はできるだけ避けてください。ビデオカメラレコーダーの取り付けやテープ交換などは、湿気の少ない、潮風のあたらない場所で行ってください。
- スポーツバックを水中に投げ込まないでください。
- 次の場所でのご使用は避けてください。
  - 高温多湿な場所
  - 40℃を超える温水中
  - 0℃以下の場所
結露、水漏れ、ビデオカメラレコーダーの故障の原因になります。
- 周囲温度が35℃を超えるときのご使用は、連続1時間以内にしてください。
- 炎天下に長時間放置しないでください。直射日光のあたる場所に置く場合は、上からタオルなどをかけておいてください。

#### 水漏れについて

万一内部に水滴などが確認された場合は、ただちにご使用を中止してください。ビデオカメラレコーダーが濡れた場合は、至急お近くのソニーサービス窓口へお持ちください。

#### 防水バックンについて

- 防水バックンの傷やヒビ割れは浸水の原因になります。直ちに新しいものと交換してください。防水バックンを濡からはずすときに、とがったものや金属を使うと溝に傷をつける恐れがありますので使用しないでください。
- 防水バックン全面に付属のシリコングリスを指先で薄く塗ってください。防水バックンの磨耗を防ぎます。布や紙にシリコングリスをつけて塗ると、繊維が防水バックンに付着することがありますので使わないでください。
- 防水バックンを装着するときは、防水バックン全面に付属のシリコングリスを薄く塗り、とがった方を上にしてねじれないように注意しながら入れてください。



- 防止バックンの寿命は使い方によりますが、防水性能を維持するため1年に1度は交換することをおすすめします。交換するときは、ソニーサービス窓口へお持ちください。交換後は、必ず水漏れの確認をしてください。

水漏れの確認方法
防水バックン交換後は、ビデオカメラレコーダーを収納する前にスポーツバックを閉じて、水中（15cm位）に約3分間沈めて水漏れがないことを確認してください。

### スポーツバックを使う（つづき）

## ビデオカメラレコーダーを取りはずす

**1** バックルをはずして、後部ボディを開ける。

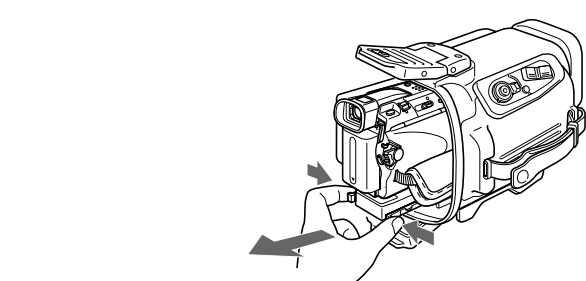
「ビデオカメラレコーダーを取り付ける」の手順2を参照してください。

**2** ビデオカメラレコーダーの電源スイッチを「切」（充電）にする。



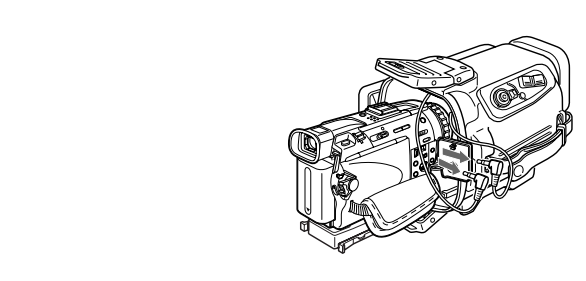
**3** 台座を引き出す。

台座の両側のノブを押さえるようにしてつかみ、ビデオカメラレコーダーをゆっくりと引き出します。



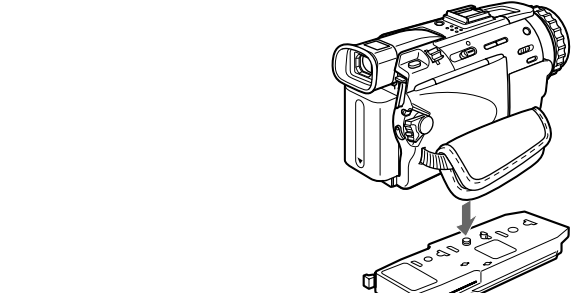
**4** リモートプラグとマイクプラグをはずす。

それぞれのプラグが前部ボディの外に出てきたところでいったん止め、プラグをはずします。



ご注意
リモートプラグ、マイクプラグは確実にはずしてください。プラグが接続されたまま台座を強く引き出すと、プラグを傷める原因になります。

**5** 台座を取りはずす。



ご注意
スポーツバックを開けるときは、スポーツバックと体についた水分を充分にふき取ってから開け、水滴が内部のビデオカメラレコーダーにかからないようにしてください。

この説明書は再生紙を使用しています。



# 準備

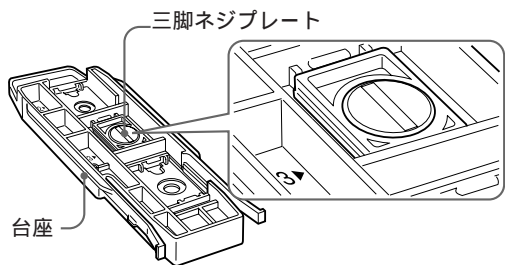
## 台座の準備

お手持ちのビデオカメラレコーダーに合わせて取り付ける台座を準備します。

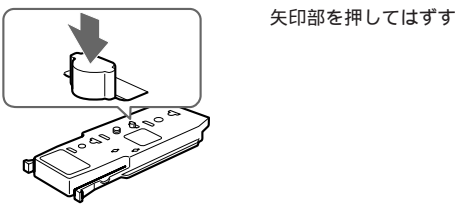
- 1 下の表で、お手持ちのビデオカメラレコーダーに合う矢印番号を選ぶ。
- 2 台座に書いてある矢印番号に合わせて、三脚ネジプレート(コイン大のもの)を取り付ける。

矢印番号	ビデオカメラレコーダー
1	DCR-TRV9/TRV900
2	DCR-TRV5
3	DCR-TRV10/TRV17/TRV20/TRV30

台座と三脚ネジプレートの取り付け  
製品の出荷時には、三脚ネジプレートは台座の矢印番号3の位置に取り付けてあります。



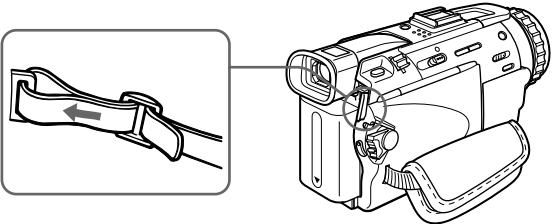
三脚ネジプレートのはずしかた



## ビデオカメラレコーダーの準備

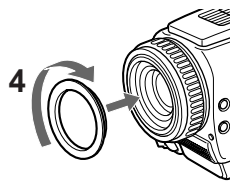
ビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- 1 ショルダーベルトをはずす。  
MCプロテクター、NDフィルター、コンバージョンレンズ、特殊フィルターなども取りはずしてください。

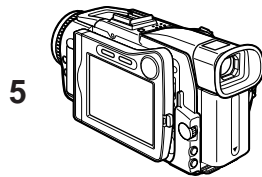


- 2 バッテリーを取り付ける。
- 3 カセットを入れる。

- 4 反射防止リングを取り付ける。(DCR-TRV900を除く)  
お使いのビデオカメラレコーダーのレンズ径に合った反射防止リングをご使用ください。レンズ径については、お使いのビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。  
DCR-TRV9,DCR-TRV10,DCR-TRV17,DCR-TRV20またはDCR-TRV30をお使いのときは、ビューファインダーを最大まで伸ばしてください。  
反射防止リングを取り付けることにより、ビデオカメラレコーダーのレンズリング部がフロントガラスへ写り込むのをある程度防ぎます。



- 5 液晶画面を見ながら撮影するときは、液晶画面を外側に向けて本体に閉じる。



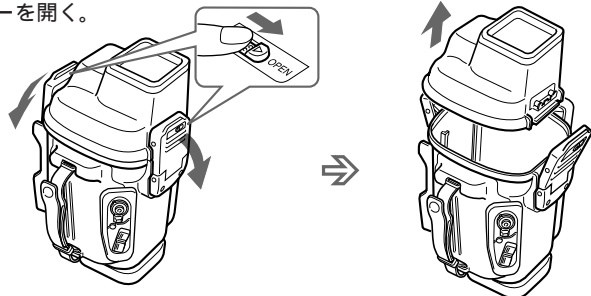
- 6 ビデオカメラレコーダーを自動調節にする。  
ビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
- 7 フォーカススイッチがある場合は「自動」にする。
- 8 ファインダーパワーセーブ機能がある場合は「切」にする。
- 9 スタート/ストップモードスイッチがある場合は「止」にする。

## ビデオカメラレコーダーを取り付ける

- 1 台座に取り付ける。  
ビデオカメラレコーダー底面の三脚用ネジ穴に台座のネジをあわせませす。



- 2 スポーツバックを開ける。  
① ロック解除ボタンを矢印の方向へずらし、バックルをはずす。  
② 後部ボディーを開く。



フロントガラスにもり止めリキッドを塗る。  
スポーツバック前部のガラス面の内側に付属のもり止めリキッドを塗布します。

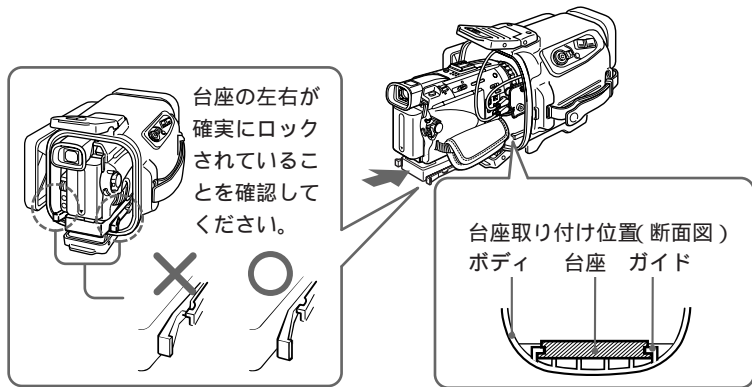
- 3 砂やゴミを取り除く。  
防水パッキン、溝および本体との接触面の砂やゴミなどをきれいに取り除き、防水パッキンに薄く均一にシリコングリスを塗ります。  
砂やゴミが付着したままふたを開めると、傷が付いて浸水の原因になります。

- 4 リモートプラグをLANC㊦(リモート)端子へ(①)、マイクプラグをマイク(プラグインパワー)端子へ(②)接続する。



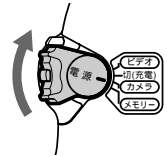
ご注意  
ビデオカメラレコーダーの後部に端子があるモデルでは、スポーツバックにビデオカメラレコーダーを途中まで入れてから接続してください。

- 5 スポーツバックに取り付ける。  
ビデオカメラレコーダーとスポーツバックを水平に保ち、台座を前部ボディー内のガイドに合わせ、台座の後部を押して、カチッとロックされるまで差し込みます。接続したリモートプラグが、スポーツバックの内部部品に当たらないように差し込んでください。



ご注意  
スポーツバックを立てた状態で台座を差し込まないでください。台座やフロント部を傷める原因になります。

- 6 ビデオカメラレコーダーの電源スイッチを「カメラ」にする。

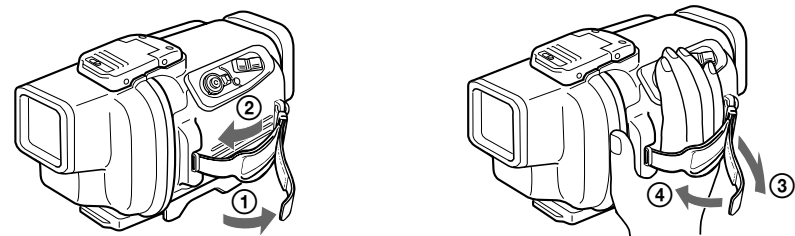


- 7 後部ボディーを閉じる。  
後部ボディーをしっかり押さえ、バックルがカチッとロックされるまで締めます。

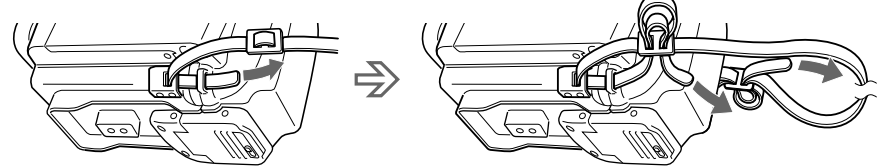
ご注意  
バックルは両側を同時にロックしてください。片方ずつ締めると、バックルをはさみ込む可能性があります。

## スポーツバックの準備

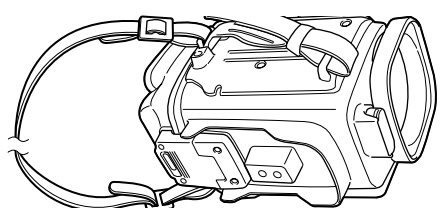
- 1 グリップベルトを調節する。  
① グリップベルトを起こし、  
② グリップベルトをゆるめる。  
③ 電源スイッチやSTART/STOPボタン、ズームボタンを操作できるように手の位置を決め、グリップベルトを引っ張って調節する。  
④ マジックテープで固定する。



- 2 ショルダーベルトを取り付ける。



ベルトのSONYマークを外側にする。



# スポーツバックを使う

## 撮影する

- 1 電源スイッチを「CAMERA」にする。  
機種によっては、ファインダーがのぞきづらい場合があります。



- 2 START/STOPボタンを押す。  
撮影が始まります。



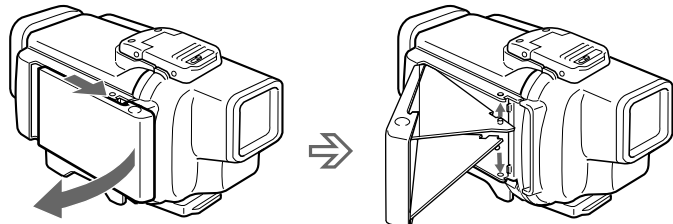
撮影を止めるには  
START/STOPボタンを押してから、電源スイッチを「OFF」にします。

撮影を一時的に止めるには  
START/STOPボタンを押します。  
もう1度押すと撮影が再開します。

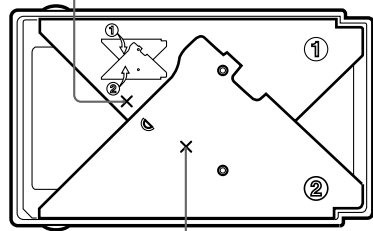
## 液晶画面を見ながら撮影する

ミラーに映る映像を見ながら撮影することができます。

- ① 開閉式ミラーをずらして開く。
- ② 上下の羽を広げ、突起を穴にはめ込む。

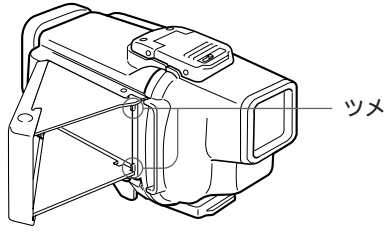


羽を広げる/閉じるときは  
広げるとき：ここを押さえながら②を広げる。



閉じるとき：ここを押してツメをロックする。

ミラーを閉じるときは  
ミラー内側のツメを押し、上の羽から閉じます。



上の羽の突起を、下の羽の穴に入れる。

ご注意  
ビデオカメラによっては、液晶画面の一部が隠れ、見えないことがあります。

## ズームのしかた

速度が2段階に変化します。  
少し押すとゆっくりズームインし、さらに押すと早くズームします。

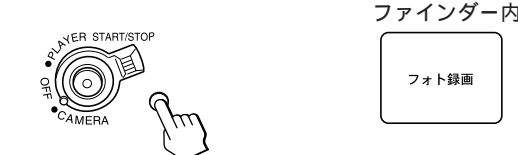


ご注意  
● 撮影一時停止状態が5分以上続くと自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消費を防ぎ、テープを保護するためです。撮影スタンバイに戻すには電源スイッチを「OFF」に戻してから、再び「CAMERA」にします。  
● 液晶画面を外側に向けて撮影中は液晶画面にカウンターが表示されません。  
● カメラ側の電源スイッチに関係なく、スポーツバック側の電源スイッチが優先されます。

## 静止画を撮る - フォト撮影

通常のスチルカメラで撮影するように、静止画を録画できます。

- 1 電源スイッチを「CAMERA」にする。
- 2 フォトボタンを押す。  
ボタンを押したときの画像が静止画で記録されます。

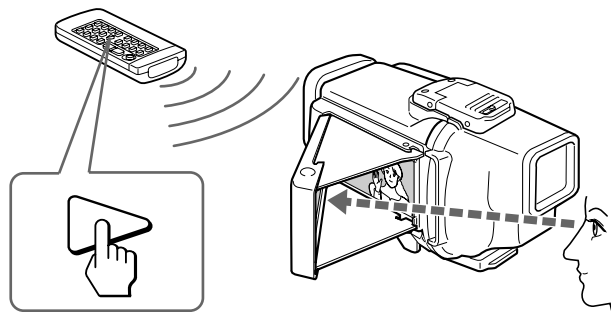


ご注意  
● スポーツバックでフォト撮影をする場合、ビデオカメラ単体で使用するときにように、フォトボタンを半押しして画像を確認することはできません。  
● スポーツバックを使ってメモリーフォト撮影、ナイトショット撮影、フラッシュ撮影をすることはできません。

## リモコンを使って画像を見る

ビデオカメラレコーダーのリモコンを使って、液晶画面で画像を見ることができます。音声は聞こえません。

- 1 電源スイッチを「PLAYER」にする。
- 2 リモコンの▶を押す。



その他の操作(停止、巻き戻し、早送り)もすべてリモコンで行ってください。

ご注意  
画面は左右が反転して見えます。